

自己評価および外部評価結果

事業所名 グループホームのぞみ

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価(実践状況)		外部評価	
			ユニット名(つくし)	ユニット名(たんぽぽ)	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営						
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	当施設の理念は、開設事前研修の際に職員全員で、自ら受けたい介護、入りたい施設について話し合い、共通の思いで作り上げた理念であり、常に理念を念頭に置き課題に対処している。また、理念はケアの基となると考え、職員ミーティングの際に確認指導している。また、新しく入職した職員にも共通の認識が持てるよう指導している。	当施設の理念は、開設事前研修の際に職員全員で、自ら受けたい介護、入りたい施設について話し合い、共通の思いで作り上げた理念であり、常に理念を念頭に置き課題に対処している。また、理念はケアの基となると考え、職員ミーティングの際に確認指導している。また、新しく入職した職員にも共通の認識が持てるよう指導している。	法人信条である「明るい笑顔」優しい言葉遣い「親切な態度」を踏まえ、事業所独自の理念「自尊心を守りながら、その人にとっての楽しみ、生きがい、自由を考えていきます」を全職員で作り上げた。この理念を職員会議・屋礼の際に確認・共有し日々のケアに反映している。新人研修の際も理念の目指すところを伝え、言葉だけでなくケアの現場で具体化していくことを指導している。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している。	地域のお祭りの際には、模擬店を出店し交流を図っている。また、その祭りのお神輿の休憩所として駐車場を開放することで、神輿が年に2回事業所に来てくれる。レントゲン検診では、家族対応以外の方で歩行ができる方は検診車にて受け、施設の椅子を貸出し地域の方と交流している。今年度は台風で中止となったが、毎年、施設の納涼祭にはチラシを配り近所の方々の参加も多数あり、余興のボランティアや踊り等でお祭りを盛り上げていただいている。地域の方が本の読み聞かせや演芸の披露をして下さっている。また近隣の保育園で育てている花々を見学させていただいたり交流を図っている。日常的に話し相手に来て下さる方や野菜などを持ってきて下さる方へ行事等がある際はお誘いしている。	地域のお祭りの際には、模擬店を出店し交流を図っている。また、その祭りのお神輿の休憩所として駐車場を開放することで、神輿が年に2回事業所に来てくれる。レントゲン検診では、家族対応以外の方で歩行ができる方は検診車にて受け、施設の椅子を貸出し地域の方と交流している。今年度は台風で中止となったが、毎年、施設の納涼祭にはチラシを配り近所の方々の参加も多数あり、余興のボランティアや踊り等でお祭りを盛り上げていただいている。地域の方が本の読み聞かせや演芸の披露をして下さっている。また近隣の保育園で育てている花々を見学させていただいたり交流を図っている。日常的に話し相手に来て下さる方や野菜などを持ってきて下さる方へ行事等がある際はお誘いしている。	自治会に加入しているが、回覧板は回って来ないので広報や地域行事のお知らせは役場から直接郵送されている。年に2回ある地域のお祭りでは、御輿の休憩所として受け入れたり、祭り会場に職員が屋台を出店するなど協力している。また、隣地のふれあいセンターでの行事に協力することで利用者との交流の機会を作っている。事業所で主催する納涼祭では地域の方々を招待するなど地域住民との交流に積極的に取り組んでいる。地域ボランティアの受け入れは多分野にわたり傾聴ボランティア、オカリナ、舞踊、フラダンスなど、利用者家族、職員、同一法人などの橋渡しを得て利用者の楽しみ事にと繋いでいる。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	介護教室等の改まった席は設けていないが、地域交流(お祭り、地域の活動時)に話をさせていただいている。また、電話などの相談にも応じている。	介護教室等の改まった席は設けていないが、地域交流(お祭り、地域の活動時)に話をさせていただいている。また、電話などの相談にも応じている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進委員会は入居者の状況、事故報告、活動状況等を報告するとともに行事と抱き合わせに行い、実際の様子についても見ていただいている。庭の環境美化についてお手伝いいただいたり、行事の余興についてもご意見をいただいた。	運営推進委員会は入居者の状況、事故報告、活動状況等を報告するとともに行事と抱き合わせに行い、実際の様子についても見ていただいている。庭の環境美化についてお手伝いいただいたり、行事の余興についてもご意見をいただいた。	家族負担に考慮し行事に合わせ2か月に1回開催できるよう工夫している。事業所からの報告の後、話し合いを持っている。ボランティアの受け入れ、家族も何か手伝いたい、などの意見・要望が出され、ボランティアの来訪や家族の奉仕作業に結びつくなど意見を反映している。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者や日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	入退居、待機者の状況に加え、介護保険の更新時の情報提供、また、毎月の機関誌などを通して施設の活動状況を報告している。	入退居、待機者の状況に加え、介護保険の更新時の情報提供、また、毎月の機関誌などを通して施設の活動状況を報告している。	介護認定の更新や入退居などの際には役場に出向き直接、顔を合わすよう努めている。また、事業所のおたよりや機関誌などを使い、事業所の現状を知ってもらえるよう努めている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含め身体拘束をしないケアに取り組んでいる	玄関は開放し両ユニット間で協力体制を図り、帰宅願望等ある方に対しては、付添や見守りを行い落ち着かれるまで対応できるようにしている。身体拘束等の適正化のための指針をもとに身体拘束廃止検討委員会にて、不適切な言葉遣いやスピーチロックに関して振り返りを行い改善案を検討している。	玄関は開放し両ユニット間で協力体制を図り、帰宅願望等ある方に対しては、付添や見守りを行い落ち着かれるまで対応できるようにしている。身体拘束等の適正化のための指針をもとに身体拘束廃止検討委員会にて、不適切な言葉遣いやスピーチロックに関して振り返りを行い改善案を検討している。	身体拘束防止委員会を組織し身体拘束の内容や弊害について全職員が理解を深めている。スピーチロックに対しては、不適切な言葉を思わず使ってしまうこともあるが、その場で注意したり時間を置いて指導している。また、言葉の置き換えの対応を職員同士で学びあっている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃されることがないように注意を払い、防止に努めている	施設内で虐待に関する研修を行っている。不適切な言葉遣いや、ケアに関してはOJTにて指導している。	施設内で虐待に関する研修を行っている。不適切な言葉遣いや、ケアに関してはOJTにて指導している。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	日常生活自立支援事業および成年後見制度についての資料を配布し勉強会を行っている。	日常生活自立支援事業および成年後見制度についての資料を配布し勉強会を行っている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又はや改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時は契約書、重要事項説明書の説明を行いその都度の質問に答えている。また、加算その他の理由による料金の改定に関しては、重要事項説明書を改定し説明同意を受けている。	契約時は契約書、重要事項説明書の説明を行いその都度の質問に答えている。また、加算その他の理由による料金の改定に関しては、重要事項説明書を改定し説明同意を受けている。		

自己	外部	項目	自己評価(実践状況)		外部評価	
			ユニット名(つくし)	ユニット名(たんぽぽ)	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	入居者に関してはケアプラン作成時に生活に対する意向等伺い、意思疎通困難な方に対しても閉じた質問を行い選択して頂いている。また、表情や行動から心情をくみ取るように指導をしている。家族に対しては面会や電話連絡の際に近況を伝え意見をいただいている。また、家族参加型の行事の際にご意見を伺うなど気軽に意見が出せるようにしている。また、運営推進会議を行事に充て委員以外でも自由に参加できるように呼びかけている。(ご家族からの要望として、日中の開わりについての要望、生活のリズムを整え認知症の遅延を図ってほしい等の意見をいただき実践に繋げている)	入居者に関してはケアプラン作成時に生活に対する意向等伺い、意思疎通困難な方に対しても閉じた質問を行い選択して頂いている。また、表情や行動から心情をくみ取るように指導をしている。家族に対しては面会や電話連絡の際に近況を伝え意見をいただいている。また、家族参加型の行事の際にアンケートを取るなど気軽に意見が出せるようにしている。また、運営推進会議を行事に充て委員以外でも自由に参加できるように呼びかけている。(ボランティアを紹介して頂き余暇活動の充実に繋げている)	面会時やケアプラン作成時に家族から要望・意見を聞いている。遠方に住んでいたり、顔を合わす機会の少ない家族には、おたよりや担当職員からの手紙を送り、希望を聞いている。また、行事の際は参加した家族全員に意見・要望を聞き取っている。家族からは、生活の充実化を望む声や、他の利用者と同様な生活リズムで過ごして欲しい、などの要望が出され、ボランティアとの交流や生活リズムの見直しをするなど直ぐに対応している。家族が意見・要望を出しやすい関係づくりに努め、個々の意見の対応や意見を反映できるよう努力している。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	その日の出勤者が集まることのできる屋に昼礼を開きケアや業務についての意見交換を行っている。また、ユニット会議での意見をリーダー会議で検討、職員会議で決定しケアに反映させている。食事ケア委員会、行事レク委員会等がそれぞれの分野で企画運営の権限をもち主体的に行えるようにしている。個人に向けては、面談を行い意見、悩みや不満等聴く機会を設けている。	その日の出勤者が集まることのできる屋に昼礼を開きケアや業務についての意見交換を行っている。また、ユニット会議での意見をリーダー会議で検討、職員会議で決定しケアに反映させている。食事ケア委員会、行事レク委員会等がそれぞれの分野で企画運営の権限をもち主体的に行えるようにしている。個人に向けては、面談を行い意見、悩みや不満等聴く機会を設けている。	昼礼やユニット会議で職員の意見・要望・提案を聞いている。ケアに関する提案は多く、利用者の食事の時のイスの高さ、支援方法などの提案があり、直ぐに検討し反映した。勤務体制や希望休などできる限り受け入れ、法人内の異動希望などは随時、法人本部に繋いでいる。管理者によるヒヤリングは不定期ながら行っており、日頃から職員とのコミュニケーションはとれている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員のスケジュールは過密にならない様に、また、プライベートも大切に出来るよう希望休を聞きながら作成している。また、入居者と完全に離れて過ごす休憩時間を設けリフレッシュできるようにしている。委員会活動は得意分野についても自主性を持った活動ができるように努めている。給与水準に関しては、法人で人事給与検討会を開催し、人事考課制度導入に向けて準備している。	職員のスケジュールは過密にならない様に、また、プライベートも大切に出来るよう希望休を聞きながら作成している。また、入居者と完全に離れて過ごす休憩時間を設けリフレッシュできるようにしている。委員会活動は得意分野についても自主性を持った活動ができるように努めている。給与水準に関しては、法人で人事給与検討会を開催し、人事考課制度導入に向けて準備している。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	各外部研修参加を呼びかけ、スケジュール調整を行いながら学ぶ機会を作っている。法人内の研修に参加し、受講できなかった職員に関しては研修を撮影しビデオ研修している。また、業務内では関わり方やケア内容を見ながら必要時OJTを行っている。	各外部研修参加を呼びかけ、スケジュール調整を行いながら学ぶ機会を作っている。法人内の研修に参加し、受講できなかった職員に関しては研修を撮影しビデオ研修している。また、業務内では関わり方やケア内容を見ながら必要時OJTを行っている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	交流会が遠方で行われているため参加していない。	交流会が遠方で行われているため参加していない。		
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援						
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前より本人についてのバックグラウンドについて情報を収集し、感情や自分の思いを表出できるような環境づくりを行い関係性が築けるよう努力している。また、入居当初は、リロケーションダメージを考慮し、ご本人の状況を見ながらゆったりと関わり寄り添いの時間を作りなじみの関係ができるよう努めている。	入居前より本人についてのバックグラウンドについて情報を収集し、感情や自分の思いを表出できるような環境づくりを行い関係性が築けるよう努力している。また、入居当初は、リロケーションダメージを考慮し、ご本人の状況を見ながらゆったりと関わり寄り添いの時間を作りなじみの関係ができるよう努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	担当のケアマネージャーより情報を取り寄せる。また、事前に面接を行い家族の話を伺っている。入居当初の環境に慣れない時期にあっては、本人の生活状況を細かく連絡している。	担当のケアマネージャーより情報を取り寄せる。また、事前に面接を行い家族の話を伺っている。入居当初の環境に慣れない時期にあっては、本人の生活状況を細かく連絡している。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人、家族はもとより、入居前に受けていたサービス提供者や担当ケアマネージャーより情報提供を依頼し、ニーズを検討し暫定ケアプランを作成し対応している。	本人、家族はもとより、入居前に受けていたサービス提供者や担当ケアマネージャーより情報提供を依頼し、ニーズを検討し暫定ケアプランを作成し対応している。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	様々な活動時、その方のできることを役割とし、一緒に行うことで協力し合う関係を築き、作業が大きな役割を担っていることと感謝の気持ちを伝えることで、入居者自身が存在意義を実感できるよう関わり方の指導を行っている。	様々な活動時、その方のできることを役割とし、一緒に行うことで協力し合う関係を築き、作業が大きな役割を担っていることと感謝の気持ちを伝えることで、入居者自身が存在意義を実感できるよう関わり方の指導を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価(実践状況)		外部評価		
			ユニット名(つくし)	ユニット名(たんぽぽ)	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	入居時家族がしてあげたいことを伺い、ケアプランに反映させている。また、入居時の居室環境設定は、本人と家族にお願いし居室づくりを行ってもらっている。	入居時家族がしてあげたいことを伺い、ケアプランに反映させている。また、入居時の居室環境設定は、本人と家族にお願いし居室づくりを行ってもらっている。家族との外出の機会を継続させるため、外出先の利用施設の情報提供をすることで家族の不安を軽減し、次の外出に繋がるように努めている。			
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしていた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	施設に面会に来てくださった方には、お茶(お子様にはジュース等)でもてなし、ゆっくりして頂ける環境をつくっている。地域のお祭りに参加したり、家族と過ごせる行事を聞き、団らんの時間を作っている。家族、友人、知人からお届け物があつた場合は、電話やお礼状の支援を行っている。	施設に面会に来てくださる方には、お茶(お子様にはジュース等)でもてなし、ゆっくりして頂ける環境をつくっている。本人が通っていた商店での買い物や、かかりつけの美容院や病院にかけ交流している。お身内の法事や知人の米寿のお祝い等の送迎をしている。地域のお祭りに参加したり家族と過ごせる行事を聞き、団らんの時間を作っている。本人の希望で自宅訪問を行いその際近所の方も呼んでいただき交流している。家族、友人、知人からお届け物があつた場合は、電話やお礼状の支援を行っている。	入居時に家族や本人から、これまで過ごしてきた中で培ってきた人間関係など、その人の生活背景を把握している。趣味嗜好、通っていた美容院、買い物先などを聞き、本人の希望に沿って外出支援している。入居後、親戚、友人が面会に訪れた際にはお茶を出し、ゆっくりと会話を楽しんでもらえるよう配慮している。家族が参加する行事では家族単位で過ごせるようテーブルを配置するなど家族との関係も大切にしている。家族が遠方であったり、知人からの贈り物や手紙に、電話や手紙を書く支援など馴染みの関係が途絶えぬよう努めている。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	個人の性格や行動パターンや入居者同士の相性を考慮し、意図的に席を案内したり、橋渡しを行ったり、一人一人にスポットライトを当てながら、様々な作業を協力し合って行うことでお互いの存在を認め合う環境を作っている。また、作業終了時は、集団で行うことの大切さを感じることができるよう話をしている。	個人の性格や行動パターンや入居者同士の相性を考慮し、意図的に席を案内したり、橋渡しを行ったり、一人一人にスポットライトを当てながら、様々な作業を協力し合って行うことでお互いの存在を認め合う環境を作っている。また、作業終了時は、集団で行うことの大切さを感じることができるよう話をしている。			
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退居された方のご家族には、施設で撮りためた写真をSDカードにデータ保存したものとデジタルフォトフレームを贈っている。また他施設に入居された方へ面会に行き関わりを持っている。	退居された方のご家族には、施設で撮りためた写真をSDカードにデータ保存したものとデジタルフォトフレームを贈っている。また他施設に入居された方へ面会に行き関わりを持っている。			
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント							
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らしの希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	コミュニケーションが図れる方に対しては、個人の思いを聴いたり、漠然として答えられない方に対してはご家族に伺ったり、本人のバックグラウンド(生活歴・趣味・意向)をもとにいくつかの選択肢を挙げ、閉じた質問を行い、その返答や表情を見ながら把握に努めている。	コミュニケーションが図れる方に対しては、個人の思いを聴いたり、漠然として答えられない方に対してはご家族に伺ったり、本人のバックグラウンド(生活歴・趣味・意向)をもとにいくつかの選択肢を挙げ、閉じた質問を行い、その返答や表情を見ながら把握に努めている。	入居時に本人・家族の思いや意向を聞いている。日々の暮らしの中で本人とのコミュニケーションを大切にし、利用者同士の会話などにも関心を寄せ本人の思いを汲み取る努力をしている。職員の気づきは個人記録や申し送りノートに記入し、多面的な支援ができるよう努めている。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前に事前の面接を行い、家族の理解があれば、自宅訪問し、これまでの生活環境を拝見させていただいたり、生育歴・生活歴・趣味・意向等情報を得ている。また、担当のケアマネージャーから本人およびサービスの利用状況の情報を得ている。	入居前に事前の面接を行い、家族の理解があれば、自宅訪問し、これまでの生活環境を拝見させていただいたり、生育歴・生活歴・趣味・意向等情報を得ている。また、担当のケアマネージャーから本人およびサービスの利用状況の情報を得ている。			
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	24時間の記録から、様々な刺激や事柄による感情、行動の変化を観察し、好みの過ごし方を検討している。また、できる、できない支援によりわかる事、わからない・支障によりわかることをセンター方式のシートを使用し検討している。	24時間の記録から、様々な刺激や事柄による感情、行動の変化を観察し、好みの過ごし方を検討している。また、できる、できない支援によりわかる事、わからない・支障によりわかることをセンター方式のシートを使用し検討している。			
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	入居時は、本人、家族の思いに加え今までのサービス提供事業所やケアマネージャーからの情報を得て暫定ケアプランを作成している。その後1ヶ月間モニタリングを行い状況をご家族と必要の関係者に報告し意見を頂き、アセスメントを行いプランを立案している。	入居時は、本人、家族の思いに加え今までのサービス提供事業所やケアマネージャーからの情報を得て暫定ケアプランを作成している。その後1ヶ月間モニタリングを行い状況をご家族と必要の関係者に報告し意見を頂き、アセスメントを行いプランを立案している。	入居時に、本人・家族の希望・意見を聞くだけでなくこれまで利用した介護サービスの状況や関係者からの情報を参考に介護計画を作っている。その後、担当職員によるモニタリングをし、他の職員の情報や家族・医療関係者の意見を聞き、これらを反映した介護計画を作成し、3か月に1回見直している。		
27		日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	24時間の行動記録記録の中に食事・水分摂取状況、排泄状況・バイタル・活動・睡眠状況等を入れ込み、多角的側面から状態の把握がでるようにした。また、身体状況に関しては、別表「1週間分」に記入し変化等読み取れるよう工夫している。	24時間の行動記録記録の中に食事・水分摂取状況、排泄状況・バイタル・活動・睡眠状況等を入れ込み、多角的側面から状態の把握がでるようにした。また、身体状況に関しては、別表「1週間分」に記入し変化等読み取れるよう工夫している。			

自己	外部	項目	自己評価(実践状況)		外部評価	
			ユニット名(つくし)	ユニット名(たんぼぼ)	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人の要望にて、自宅訪問や買い物等の付き添いを行っている。	法事や知人の米寿のお祝い等出席の際、職員がお連れしたり、外出の際リフト車の貸し出しを行っている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域でボランティアを募り外出に付き添いをしていただいている。	地域でボランティアを募り外出に付き添いをしていただいている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	8名の方が入居前からのかかりつけ医に診ていただいている。(そのうちの3名の方は訪問診療を受けている)家族対応の方には心身の状況(直近1週間のバイタル、食事水分摂取状況、排泄状況、および精神面の変化等)情報提供し、受診結果を伺い記録している。また訪問看護を通して医師との連携をとっている。	6名の方が入居前からのかかりつけ医に診ていただいている。2名の方は遠方の施設からの転居の為家族の希望もあり転院されている。家族対応の方には心身の状況(直近1週間のバイタル、食事水分摂取状況、排泄状況、および精神面の変化等)情報提供し、また、受診結果を伺い記録している。また、訪問看護を通して医師との連携をとっている。	利用者、家族の希望するかかりつけ医にて受診している。これまでのかかりつけ医での受診は基本的には家族対応となっているが、家族の都合で職員が対応する場合がある。往診の医師で受診する利用者もいるが週1回の訪問看護は利用者全員が利用している。専門科への受診は職員が支援し、いずれの場合も情報は共有している。利用者が高齢となり家族から「受診時の身体介護が難しく不安」との訴えがあり、対応を検討中である。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	訪問看護ステーションと業務委託契約している。訪問時に1週間の心身の状況の記録を確認して頂き変化がある方について相談をし、必要な処置や受診を行っている。	訪問看護ステーションと業務委託契約している。訪問時に1週間の心身の状況の記録を確認して頂き変化がある方について相談をし、必要な処置や受診を行っている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時には情報提供票を作成し、また、重要なポイント等は口頭でも説明し伝えている。面会に行きその都度状況を伺い、適宜インフォームドコンセントにより情報交換を行い、退院に備えた環境作りをしている。	入院時には情報提供票を作成し、また、重要なポイント等は口頭でも説明し伝えている。面会に行きその都度状況を伺い、適宜インフォームドコンセントにより情報交換を行い、退院に備えた環境作りをしている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所ですべてを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時に終末期のあり方について意向をうかがっている。以後もケアプラン説明時や体調変化時等重度化した場合について家族の意向を確認し、3名の方に関しては、医師の協力を得て訪問診療を受け、終末期になった場合にも、住み慣れた施設で生活出来るよう環境を整えている。また、訪問看護師と連携し重度化対応指針、終末期ケアのマニュアルを作成している。	入居時に終末期のあり方について意向をうかがっている。以後もケアプラン説明時や体調変化時等個々の入居者に、重度化した時の対応について家族に説明を行い、家族の意向をもとに対応を確認し合っている。また、訪問看護師と連携し重度化対応指針、終末期ケアのマニュアルを作成している。	入居時に、本人・家族の希望を聞き、事業所のできることを説明し、書面で意思確認をしている。看取りのマニュアルや在宅医療医師・特別看護師の訪問など医療体制は整えてある。本人の身体変化の度に医師、家族と話し合いを段階的に持ち、家族の思いに沿えるよう取り組んでいる。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当てや初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変時の対応マニュアルに沿って研修を行っている。症状に応じての処置や、対応方法を訪問看護師により、定期的に研修を受けている。	急変時の対応マニュアルに沿って研修を行っている。症状に応じての処置や、対応方法を訪問看護師により、定期的に研修を受けている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	毎月、実際の火事を想定し通報、避難誘導、初期消火訓練を行っている。個々の身体機能や障害や、理解度等により避難誘導の方法を検討している。地震水害等の災害に関しても、非常災害対策計画を作成し、職員の参集時間の把握、役割分掌表により個々の持つべき役割に沿った行動できるよう、日中、夜間を想定した訓練を行っている。また、地元の自主防災組織関連に依頼している。	毎月、実際の火事を想定し通報、避難誘導、初期消火訓練を行っている。個々の身体機能や障害や、理解度等により避難誘導の方法を検討している。地震水害等の災害に関しても、非常災害対策計画を作成し、職員の参集時間の把握、役割分掌表により個々の持つべき役割に沿った行動できるよう、日中、夜間を想定した訓練を行っている。また、地元の自主防災組織関連に依頼している。	毎月、火災を想定した避難訓練を行っている。職員には事前に知らず管理者の合図で、消防署へ通報、避難誘導、初期消火などの訓練を行っている。火元を変えて避難経路を確認し、時間帯や職員体制もその都度、想定を変えて行っている。終了後は職員間で検討し、車イスを増やして欲しいなど意見が出されている。職員ホットラインを利用し、地震・水害時は法人本部より全職員に情報が入る体制を整えている。災害時用品の備蓄もある。	実際の災害をシミュレーションした職員緊急連絡網訓練と地震や水害に対応した訓練も行い職員の持つ役割分担を身につけるとともに、地域との連携・協力体制の構築にも取り組むことを期待したい。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援						
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	日頃より相手の立場に立った声掛け、尊厳を守る支援を心がけるよう指導している。特に排泄時、入浴時、公衆の面前での声掛けの配慮や、また、スピーチロック等には注意するよう働きかけている。職員にも守秘義務についての指導を行い誓約書をとっている。	日頃より相手の立場に立った声掛け、尊厳を守る支援を心がけるよう指導している。特に排泄時、入浴時、公衆の面前での声掛けの配慮や、また、スピーチロック等には注意するよう働きかけている。職員にも守秘義務についての指導を行い誓約書をとっている。	職員自身が「嫌だ」と感じる言葉や態度は取らないことを徹底している。居室への入退室、排泄支援、バットの保管場所など利用者の誇りを損ねないよう細心の注意を払っている。難聴の利用者には筆談や身振りで伝え疎外感を持たないよう配慮している。個人情報に関する書類も厳重に管理している。	

自己	外部	項目	自己評価(実践状況)		外部評価	
			ユニット名(つくし)	ユニット名(たんぽぽ)	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	おやつや夕食の献立を一緒に考えたり、余暇の時間をどう過ごしたいか聞きながら進めている。また、大勢の前で意見や思いを表せない方については寄り添いながら聞いたり、意思疎通が困難な方に対しては、表情や行動で思いを汲みとるよう指導している。	おやつや夕食の献立を一緒に考えたり、余暇の時間をどう過ごしたいか聞きながら進めている。また、大勢の前で意見や思いを表せない方については寄り添いながら聞いたり、意思疎通が困難な方に対しては、表情や行動で思いを汲みとるよう指導している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	生活歴、背景を理解し要望をできるだけ聞いて支援している。日課はなく、余暇活動に関してもその時々で話題にあがったことを、個人及び集団の状況を見ながら進めている。集団で活動することが苦手な方については、無理強いすることなく希望を伺いながら対応している。おやつや場所も自由になっている。また、おやつや食事以外でも希望を伺いながら飲み物の提供を行っている。	生活歴、背景を理解し要望をできるだけ聞いて支援している。日課はなく、余暇活動に関してもその時々で話題にあがったことを、個人及び集団の状況を見ながら進めている。集団で活動することが苦手な方については、無理強いすることなく希望を伺いながら対応している。おやつや場所も自由になっている。また、おやつや食事以外でも希望を伺いながら飲み物の提供を行っている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	入居時におしゃれについて(好みの色・デザイン・こだわり)などをうかがっている。(バックグラウンドアセスメント)着替えや入浴時など選べる方には選んでもらい、そのほかの方には好みと思われるものを一緒に選び着用していただいている。化粧の習慣のある方には化粧品が使えるように支援している。	入居時におしゃれについて(好みの色・デザイン・こだわり)などをうかがっている。(バックグラウンドアセスメント)着替えや入浴時など選べる方には選んでもらい、そのほかの方には好みと思われるものを一緒に選び着用していただいている。化粧の習慣のある方には化粧品が使えるように支援している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片づけをしている。	食事ケア委員が中心となり、嗜好調査を行い嫌いな食材には代替えを提供、よく作った料理を献立に入れるなど食事作りに反映させている。1週間分の献立を作るが、その日の天候や希望を聞きながら柔軟に対応している。食事作りや片付けにおいてその方のできる事に着目し職員と一緒に進んでもらっている。	食事ケア委員が中心となり、嗜好調査を行い嫌いな食材には代替えを提供、よく作った料理を献立に入れるなど食事作りに反映させている。1週間分の献立を作るが、その日の天候や希望を聞きながら柔軟に対応している。食事作りや片付けにおいてその方のできる事に着目し職員と一緒に進んでもらっている。	朝食・夕食は事業所で作り、昼食のみ隣接する同一法人施設より調理済の物が届く。食事ケア委員が献立を立て、食材は業者から配達してもらい他の物を近くのスーパーで買い足している。利用者の力に合わせ職員と一緒に調理、後片付けなどを行い、料理の下ごしらえ、オシポリや箸のセッティングなど利用者は張りあいを持って行っている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	摂取カロリーや栄養バランス等視野に入れながら献立を作っている。食事、水分量をチェックしながら摂取量が少ない方に対しては、食事の時間に限らずその方の食べたい時間や場所に配慮して提供している。	摂取カロリーや栄養バランス等視野に入れながら献立を作っている。食事、水分量をチェックしながら摂取量が少ない方に対しては、食事の時間に限らずその方の食べたい時間や場所に配慮して提供している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	起床時、就寝時に行っている。その方の口腔状態により、歯ブラシ、口腔用スポンジ、舌ブラシ等を使用し能力に応じて行っている。	起床時、就寝時に行っている。その方の口腔状態により、歯ブラシ、口腔用スポンジ、舌ブラシ等を使用し能力に応じて行っている。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	8の方がトイレで排泄されている。(排便に関しては全員)意思疎通困難な方に関しても、時間をや尿意、便意を言動や表情等で予測を立てトイレ誘導を行っている。	7名方がトイレで排泄されている。(排便に関しては全員)意思疎通困難な方に関しても、時間をや尿意、便意を言動や表情等で予測を立てトイレ誘導を行っている。	排泄チェック表を使い一人ひとりの排泄パターンを把握し、車イスを使用する利用者でもトイレでの排泄を支援している。パット類の見直し、時間帯によってパットを変えるなど丁寧にチェックしている。排泄支援は自尊心を損なわないよう努めている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	毎日乳製品(牛乳・ヨーグルト)を200gとブルー2個を提供、また水分摂取を勧めたり、繊維質の多い野菜を多く取り入れている。個人的には杜仲茶を飲んでいただき、スムーズな排便を促している。トイレ内に同行出来る方に関しては腹部マッサージを行い自然排便を促している。	毎日乳製品(牛乳・ヨーグルト)を200gとブルー2個を提供、また水分摂取を勧めたり、繊維質の多い野菜を多く取り入れている。トイレ内に同行出来る方に関しては腹部マッサージを行い自然排便を促している。		
45	(17)	○入浴を率い、ホームができるまで 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	1週間を通し毎日午前と午後入浴の対応を行い、入居者の希望、心身の状態をみながら進め、毎日入浴される方もいる。入浴するタイミングもその日のその状況に応じて誘い掛けを行っている。	1週間を通し毎日午前と午後入浴の対応を行い入居者の希望で進めている。入浴するタイミングもその日のその状況に応じて誘い掛けを行っている。	毎日、入浴の準備をし時間(午前・午後)も利用者の希望に沿って入浴している。毎日入浴する利用者もいるが平均的には週2~3回の入浴となっている。入浴を嫌がる場合はタイミングを変えたり職員が変わるなど工夫している。	

自己	外部	項目	自己評価(実践状況)		外部評価	
			ユニット名(つくし)	ユニット名(たんぽぽ)	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	1日の状況から、活動量を調整したり、心身の状況を見ながら適宜休息を勧めている。室温に配慮し、夜間も適宜水分補給を行っている。また、眠れない原因を考え起因しているものを取り除くようしている。	1日の状況から、活動量を調整したり、心身の状況を見ながら適宜休息を勧めている。室温に配慮し、夜間も適宜水分補給を行っている。また、眠れない原因を考え起因しているものを取り除くようしている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	内服薬説明書をファイリングして、内容の確認を促している。また、内容に変更があった場合には申し送りノートおよび受診記録に記入し周知している。投与時は投薬チェック表に記録し、副作用に関しては、観察ポイントを個人別で表にし確認している。	内服薬説明書をファイリングして、内容の確認を促している。また、内容に変更があった場合には申し送りノートおよび受診記録に記入し周知している。投与時は投薬チェック表に記録し、副作用に関しては、観察ポイントを個人別で表にし確認している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	入居時、生活歴、趣味、趣向、生活習慣等を聞き取り、それをもとに余暇活動の支援を行ったり、様々な作業について、できる、わかることをチェックし本人が意欲的に参加できるように勧めている。	入居時、生活歴、趣味、趣向、生活習慣等を聞き取り、それをもとに余暇活動の支援を行ったり、様々な作業について、できる、わかることをチェックし本人が意欲的に参加できるように勧めている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるよう支援している	年度の前半は、日常的なドライブや気候をみながら外出の計画を立て様々な場所へ出かけた。外出の際は昼食を外でとるようにしているが、地域の食堂の方にも、席の配置や特別メニュー等で協力いただいている。個人的には施設の買い物の際一緒に出掛けている。	年度の前半は日常的なドライブや気候をみながら外出の計画を立て様々な場所へ出かけた。外出の際は昼食を外でとるようにしているが、地域の食堂の方にも、席の配置や特別メニュー等で協力いただいている。個人的には自宅や知人宅訪問や買い物等で外出している。	散歩、外気浴は日常的に行っており、散歩や玄関掃除の際など地域の人とおしゃべりする機会になっている。また車イスで周辺の景色を楽しみながら通院するなど積極的に外出支援に結びつけている。季節ごとの外出は月1回ほど計画し、花見やクラフトパークなどに出かけている。2~3人での買い物支援や、家族の協力を得ての墓参りなど外出の機会作りをしている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	自己管理されている方は1名、その他の方に関しては家族より依頼され施設管理し毎月、個人現金出納票と領収書を送付し確認して頂いている。	自己管理されえいる方2名、その他の方に関しては家族より依頼され施設管理している。外出や買い物、外食の際に所持し、見守りの中で支払を行っている。毎月、個人現金出納票と領収書を送付し確認して頂いている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	要望があった時や、家族や知人から贈り物や手紙等あった際には電話をかける援助を行っている。また、手紙の返信の声掛けや文面を考える手伝いと投函の支援を行っている。	要望があった時や、家族や知人から贈り物や手紙等あった際には電話をかける援助を行っている。また、礼状の代筆や投函の支援を行っている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を探り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	全体的に広い空間となっているが、ベージュ、を基調とした普通の家の内装に近づけている。音に関しては、テレビや音楽は雑音とならないよう、観よう、聴こうとしている時に点けるようにしている。また、職員の声掛けや生活音もできるだけ静かにするよう指導している。室温は空調設備・床暖等で調整している。花や観葉植物を飾り生活に彩りを加えている。	全体的に広い空間となっているが、ベージュ、を基調とした普通の家の内装に近づけている。音に関しては、テレビや音楽は雑音とならないよう、観よう、聴こうとしている時に点けるようにしている。また、職員の声掛けや生活音もできるだけ静かにするよう指導している。室温は空調設備・床暖等で調整している。花や観葉植物を飾り生活に彩りを加えている。	共有部分は、床暖房、空調で快適に温度調整してあり湿度管理もしている。天井部の天窓は眩しさを感じない角度に造られており太陽光が穏やかで落ち着きを感じる。台所、ダイニング、リビングと続く空間は広々として、観葉植物や花が置かれている。その片隅に飼われている子猫は利用者の楽しみや癒しになっている。また、リビングの先に備えてある仏壇での利用者・職員が揃っての読経する時間は、共に暮らす感覚が生まれる一因となっている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	仏間前のソファは他の入居者から死角となり一人になれる空間である。また、ベランダには自由に出ることができる。	仏間前のソファは他の入居者から死角となり一人になれる空間である。また、ベランダには自由に出ることができる。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	カーテンと押入れ以外、すべて私物(畳・テレビ・鏡台・家具等)を自由に持ち込んでいただき、家具の配置も、基本的に本人と家族にお任せしているが、なるべく自宅の環境に近づけていただくよう、また、その方の状況によって助言させていただいている。	カーテンと押入れ以外、すべて私物(畳・テレビ・鏡台・)を自由に持ち込んでいただき、家具の配置も、基本的に本人と家族にお任せしているが、なるべく自宅の環境に近づけていただくよう、また、その方の状況によって助言させていただいている。	カーテン、押し入れが備え付けで、他は全て利用者の好みや使い勝手に合わせて整えている。冷蔵庫、ソファ、馴染みの鏡台、タンス、などが並び、家族写真、仏壇、人形などのひとつひとつにその人らしさを感じる空間となっている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	トイレなどは目印をつけたり、衣類の引き出し等は簡潔に表示することで理解できるようにしている。	トイレなどは目印をつけたり、衣類の引き出し等は簡潔に表示することで理解できるようにしている。		